

# 愛 労 連

愛知県労働組合総連合

名古屋市熱田区沢下町8-18  
労働会館第2ビル  
TEL 052-871-5433  
発行人 阿部 精 六

第57号 1997年11月5日

愛労連春闘討論集会

とき 12月6日(土)~12月7日(日)  
ところ 労働者研修センター(定光寺)  
単産・地域からたくさんの参加を

## おもいきって、中立や連合を訪問。要求語りあう 対話運動に確かな手ごたえ

加盟のあいさつをする東海法労岩田幸雄委員長



### 総対話・共同を 秋の運動の柱に 愛労連第一回評議員会

愛労連は十月二十四日、名古屋市市民会館で秋年末闘争方針の補強と、闘争財政確立のための「組合員一百万カンパ」等を議案とする第一回評議員会を開きました。

秋年末闘争の大きな課題である「総対話・共同、十万人オクルグ」大運動を組合員みんなが参加し、対話と共同で労働者・国民いじめ、春闘つぶしを許さない大きな運動にしていこうと



### 消費税や医療改悪で怒り!! 共通する思いや悩みを感じた

すべての労働者・労働組合に対話と共同を広げ、橋本内閣の悪政を国民的世論で包囲しようと総対話運動が地域労連や単産で始まっています。思いきって「連合」労組を訪ねてみたら、「思いや悩みに共感できた」と元気になった組合も出てきています。

うんゆ一般はトラックの日(10月9日)に5カ所で健康チェックや要求アンケートなどで対話した。

中地域センターでは毎年「中区春闘共同の会」と共通の「くらしと要求アンケート」をもって、組織の加入や各種の企画行事など、参加の申し入れをおこなっています。この秋の情勢を受け、今までのワクを越えて取り組むことを確認しました。十月八日の訪問では、早くも新しい反応を感じています。新書記長に選出されたというHホテル労組では、「ホテル情報以外の地域の情報が欲しい。アンケートは役員会で相談する」と。また、全国に組織を持つ大手民間「連合」労組では、書記長が会議室に通じ

や、全労連一千五百万チラシ宣伝(愛知は四十万)をやり抜き、悪政の限りをつぐす橋本内閣を包囲する広範な世論と運動をつくりあげる決意を固めました。また、東海地域法律関連労働組合愛知支部の加盟を承認しました。

#### 【秋年末闘争・行動日程表】

- 11月
  - 1日 住民が主人公の地方自治をすすめる交流会 上旬~中旬 年末一時金回答指定期
  - 14日 医療・労働法制中央行動 東海・北陸担当日
  - 11日~第2次闘争強化ゾーン
  - 中旬 秋年末闘争「第2次宣伝行動」(愛知は40万) \*11月15日を中心に11月末までとする
  - 16日 11・16国民大集会(東京)
  - 22日~23日 機関紙・宣伝学校
  - 22日 はたらく女性のホットライン
  - 23日 「ガイドライン反対」小牧基地撤去を求める平和集会
  - 24日 あいちパートの元気が出る集会
  - 29日~30日 あいち労働安全衛生学校
  - 29日 単産・地域代表者会議
  - 30日 第29回はたらく女性の愛知県集会 関西国際空港現地調査バス行動
- 12月
  - 6日~7日 98国民春闘討論集会(定光寺研修センター)
- 1月
  - 10日 98国民春闘「新春学習会」
  - 18日 あいち社保学校
  - 24日 98国民春闘・臨時大会

てくれ、じっくり申し入れの内容を聞き、「アンケートは検討できるかも。でも、全労連の名前ではだめ。『春闘共同の会』なら検討できる」

また、中堅土木企業労組では、「近く支部長会議を開催する。そこで下ろすので、アンケート四百五十枚と労働法制の署名用紙を持つてきて欲しい」など、大きな反響がありました。そのほかにも、役員会にはかつて、検討したいとの反応がほとんどでした。

また、ほんの一部の役員が取り組み始めたところですが、引き続き、中地域五百労組への可能な限り申し入れをすすめる予定です。

### 新ガイドライン

## 許すな!

10 21統一行動

日本を自動的に戦争に引きこむ新「ガイドライン」を許すなと二〇〇二愛知県民集会が、中区栄の久屋市民広場で開かれました。

会場には、「名古屋港



訴えにたつた代表は、「自衛隊小牧基地では、一三〇〇輸送機がすでに軍事演習に向かう米海兵隊の輸送に使われており、いっそう後方支援の重要な役割を担う危険性がある」と指摘しました。

県下では、九地域で学習会、宣伝、集会、デモなどがおこなわれました。

組、全印総連から五名の仲間が休暇をとって参加しました。学童労組の仲間も、署名の訴えもかねて参加。要求のあるところは、行動参加も積極的です。

他労組の訪問活動などあまりやったことのないメンバーが「目をつむって」訪問しました。区内には大企業労組もあり、「気後れ」もあります。そこで、これまで少しもつき合いのあったところを手始めにまわりました。

訪問先では、「組合役員が退職したので組合はなくなった」「組合役員が管理職になり実質解散。若い人

がやるといえば応援するつもりはあるが」など、労働運動が身近になくなっていることにアゼン。

また、大企業の下請けでは、「これ以上のリストラはやりようがない。外人を含めて非正規雇用労働者が多くなつた」と職場の実態が。ここでは、消費税や医療改悪についてのため息や怒りも出されました。

全労連新聞などに報道されているような事態には巡り会いませんでしたが、話さえすれば、私たちが共通する悩みや思いが感じられ、やってみると結構おもしろいと感しています。

# 労働者・国民犠牲の 行革・規制緩和 許すな！



## 郵政民営化で 郵便局つぶれる

郵産労愛知県協議会

橋本「行革」の目玉の一つ、郵政三事業は、九月三日の中間報告で、「簡保は民営化、郵貯は早期に民営化、郵便は国営化」とされました。その後、国民から民営化に対する強い反対意見、九割を越す地方議会の民営化反対の意見書採択や特定局長会の民営化反対決議などで、十一月の最終報告では、「郵政民営化」の見直しは必至の情勢となっています。

郵政三事業労働組合は、「郵政三事業の分離・分割・民営化に反対し、その撤回」を求めています。全国で運動を展開しています。

採算のとれない郵便局は廃局に

銀行業界は、「金融ビッグバン」で競争が激しくなり、安心できる国営の郵貯や簡保に資金が流れ込んでしまつたから、民営化して同じ条件で競争させる」と要求しています。

民営化されれば、いつでもどこでも、近くて、安心、手数料も安く、普段着で行ける郵便局はなくなつてしまいます。採算のとれない郵便局は廃局になりかねないからです。

全国で約二万四千局の内、単局ごとでみると一万八千局は赤字経営といわれています。地域の郵便局がなくなれば、国民生活に大きな影響を与えます。

また、利用アンケートなどで出された、金利の引き下げ、ポストの設置、年賀八ガキの減額等の要望も当局に要望しています。

私たちは、地域住民の方々の共同行動で、「郵政三事業民営化反対」の運動を大きく広げていきたいと思っています。

九月二十八日の「国民本位の郵政事業をめざすシンポジウム」でも、参加者からそういう意見が多数だされました。

郵産労が取り組んでいる民営化反対署名には、地域の公職者や利用者が積極的に応じてくれています。

また、利用アンケートなどで出された、金利の引き下げ、ポストの設置、年賀八ガキの減額等の要望も当局に要望しています。



名古屋市中区栄ターミナル前で11月2日(日)に宣伝行動  
民営化賛否の市民投票では反対163、賛成6と市民は圧倒的に反対!!



労働法制の学習会には60  
人が参加(十月十二日)

## 労働者の権利保障が危ない

全労働あいち支部

労働行政の「行革」「規制緩和」で労働者を守る法律も行政機関もなくなると大変な事態になります。

行政の機能の縮小や解体で、職業安定所や労働基準監督署、婦人少年室などの出先機関が外局化・独立行政法人化されると、本省との一体性を失って「分断」され、労働者の実態など、ますます行政に反映されなくなり、また、独立行政法人化で「効率性」のみ追求される

労働行政の「行革」「規制緩和」で労働者を守る法律も行政機関もなくなると大変な事態になります。

行政の機能の縮小や解体で、職業安定所や労働基準監督署、婦人少年室などの出先機関が外局化・独立行政法人化されると、本省との一体性を失って「分断」され、労働者の実態など、ますます行政に反映されなくなり、また、独立行政法人化で「効率性」のみ追求される



第七回動くもの囲碁・将棋大会

## みがいた腕ひろう

第七回動くもの囲碁・将棋大会

「第七回動くもの囲碁・将棋大会」が、十月十九日(日)日本棋院中部総本部で開催されました。

今年も、様々な行事が重なり、参加者は例年より少なく五十一名、囲碁・将棋ともに初段以上のA級、一級以下のB級に分かれ、熱戦が繰り広げられました。表彰は次のとおりです。

【囲碁A級】  
優勝 平野 央(名古屋労)  
二位 丹羽哲夫(全港湾)  
三位 山本裕康(全港湾)

【囲碁B級】  
優勝 今井和美(全動労)  
二位 岩田久夫(名古屋教)  
三位 伴能雅俊(名古屋労)

【将棋A級】  
優勝 福島隆夫(名水労)  
二位 廣田英也(名古屋労)  
三位 梅田勇二(全画)

【将棋B級】  
優勝 佐口克彦(全建労)  
二位 杉浦 厚(全動連)  
三位 岩田和晃(全労働)

## 全動労争議団 支援と交流

北海道へ  
激励ツアー



「国鉄闘争支援・全動労争議団家族との交流・激励ツアー」は、十月二日～五日の日程で北海道へ旅立ちました。熟年グループ二十一名と若者二人とともに、北の国、紅葉と味覚の北海道へ！

この旅のメインは、「JR北海道(札幌)前での要請行動と全動労争議団家族との激励・交流会」でした。

JR北海道への要請行動では、「愛知からはるばる要請にきました。誠意を持って、われわれとあつて下さい」とマイクで呼びかけたリ、シュプレヒコールで叫んだり、けれど、「ただいま閉鎖中の立看板も、ガラス越しの守衛の視線も、あらぬかたを見つめるばかり。なにも聞かれないふうを装って、ことさら無表情で冷たく。こんな冷たさに争議団の方たちは、十年間たたくてこられたのです。その一端の何万分の一の苦勞を共有して、私たちは、プリップ、プン、プン。

全労働争議団五家族との夕食交流会は、激励するなどおこがましう、とおいつつ語られた家族の実相に、かえってこちらが激励され、その暖かさには包まれた二時間半でした。「人はその地域や人間につくられる。いろいろあつたけど、愛知にきて本当によかつた。名古屋にきて夫婦の関係がよくつたし、女性を見る目も変わった。女性もこんなにながらばっているんだとわかつた」「夫は東京の全動労本部にいます。誕生日にプレゼントが届き、開けたらピンクのネグリジェ!とても着れないけど、今も大事に箱に入れてあります」「娘が小学校に入学する頃には、争議が終わってほしいと思っていたが、もう十歳になってしまった。この子が二十になるまでになんとか終わってほしい」

争議を続けるまわりには、必ずその人たちが支える暖かい人垣があることを、そしてその優しさにとつたり浸りきることに、たつぷり浸りきることに、勝利への楽天性がはぐくまれることを、なによりも家族のたくましさを感じたゆづべでした。

今までは工藤さんひとりが全動労争議団でした。が、滝川のある人、この人の顔がつかがり、争議を支える人、それを支援している私たちという厚みができました。

たたくっている人特有の強さ、楽天性に刺激を受け、秋の北海道の紅葉にこころが洗われた私たちでしたが、どんなお返しができるでしょうか。

四日間のバス車中では、感動の声とさんざめく笑いが絶えることなく、酒量も含めて、駆け足で北海道じゅうに私たちのエネルギーをふりまいたと思つていいのではなか。

(愛労連副議長大橋路代)



争議団と家族はみんなたくましい